

# じゃっど

# 新聞

JADDO 第13号

1995年 12月 25日 新

## JADDO

アジアのこども達を援助する会

事務局：〒895 鹿児島県 川内市 神田町 11-20

若松記念病院 内

TEL. 0996-20-1402 FAX0996-23-6681

## 第1回ワークショップ

11月21日、22日  
帖佐理子

11月の第2回じゃっどツアーでは、“じゃっど”の活動視察の他にワークショップを開催いたしました。ラオスの小学校の先生たち25人を対象に行なった教材についての勉強会です。

“じゃっど”では小学生に健康教育を行い子供たちがより健康になり楽しい学校生活を送れるようにと活動をしてきました。健康教育用にポスターや紙芝居のような本を届けました。先生たちに説明をして先生たちから子供たちへ健康の知識が伝えられるようにと考えたのですが“じゃっど”から届けたポスターや本を使った授業がなかなか始まりませんでした。ドンカルム村だけが1か月に1回の健康教室を開始したと報告があり見にいきました。

ポスター等を使ってもらえないのはなぜかを考えながら学校の授業を見ていて、先生たち自身が教材を使った授業を受けたことが無い事を知りました。

そこで、教材の作り方、教材を使った授業のすすめ方、何より楽しく授業する方法があると先生たちに知ってもらいたいと勉強会を計画しました。

川内から次の3人に専門家としてワークショップを計画、実行してもらいました。出発前の一言をもらいました。

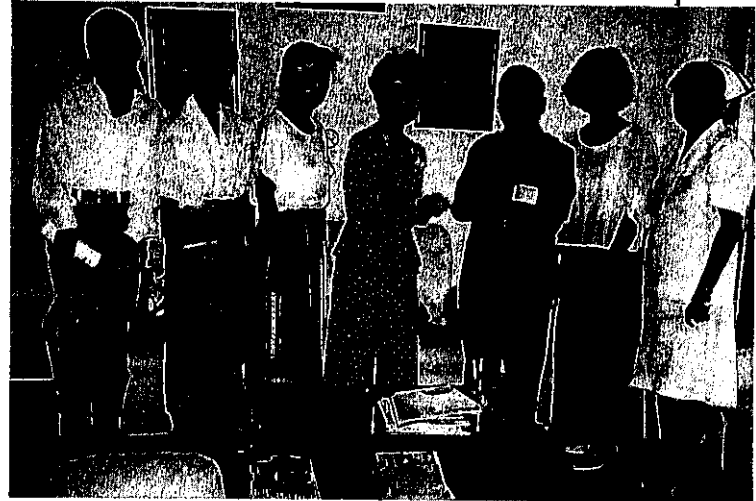
藤田啓子；若松記念病院 看護部長：いってきまーす。わたしたちが日本を代表する専門家です。？

山本恵美子；高城保育園 主任保母：ワークショップってなあに？えっ専門家？私にできるかしら。

田中律子；清水が丘保育園 園長：と言うわけでラオスの地に立った私達。今回は私達の報告です。

### 第2回じゃっどツアー日程

- 19日 ビエンチャン着、ドンカルム訪問 校舎補修状況視察
- 20日 ラオス厚生省訪問、日本大使館訪問、セタチラート病院見学、ホンケ小学校授業参観
- 21日 ワークショップ；教材づくり、教材を使った授業その1
- 22日 ワークショップ；授業その2、保健教育（急救時の対処の方法）
- 23日 タラート訪問授業参観
- 24日 ビエンチャン発



ビエンチャン市立セタチラート病院にて  
ラオスで2番目に大きい病院です。しかし、検査の試薬を買うことができずにマラリアの検査など十分にできません。藤田啓子氏から院長先生に1,000\$を寄付されました。これで、5つの分院の検査資料もそろえることができます（左から；中村さおり氏；元青年海外協力隊現じゃっど協力者、帖佐、山本、藤田、院長、田中、セタチラート病院看護部長）



### 歓迎の陣

タラート小学校  
ワークショップ終了の翌日、訪れた私達を歓迎して子供たちが踊ってくれました。

衣装を着替えて、ちょっぴり緊張した顔で....。

先生のひざに抱き抱えた太鼓の単調なリズムと、キラキラした瞳の子供たちの指先の動きが何とも愛らしく、私達大感激。

ワークショップで作ったものがもう、教室に貼ってあり、作ったさいころを授業に使ってあり大変うれしかったです。

## ワークショップの風景



Q? こん  
どうおるんだ?!

### 教材作り

サイコロ、  
時計、  
文字カードなど  
物が手に入りにくいラオスではセロテープや紙、定規などの使い方などから伝える必要がありました。

おん?!

### 教材を使つての実習

数カードとお手玉を使って数の対応をしているところ。  
その他、持参した紙芝居やエプロンシアター、リズム遊びなどを実習し、授業はいろいろな物で教材を工夫し、楽しくやれることを伝えました。(つもり...)

### 山本、田中からプレゼント

”じゃっど”の援助対象校であるホンケ、ドンカルム、タラート、タドゥア、ノンサワンの5つの小学校へ文房具や絵本などをプレゼントしました。

### ワークショップの受講者

じゃっどの援助対象校であるホンケ ドンカルム タラート タドゥア ノンサワンから各3名(校長先生、1、2年生担任)づつ

ピエンチャン特別区教育委員会から5名

ホンケ小学校周囲の7つの小学校から各1名づつ

合計25名でした。

ピエンチャン市内のホンケ小学校で行ないました。